

昭和61年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書
—観光振興セミナー—

昭和62年6月

国際協力事業団
研修事業部

昭和61年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書
—観光振興セミナー—

JICA LIBRARY



1040336[8]

昭和62年6月

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団		
受入 月日	'87.10.19	116
登録 No.	16908	75.9
		TAF

序 文

我が国は、開発途上国の観光関係行政機関の人材育成と友好関係の増進を目的として、昭和40年度から集団研修コース「観光振興セミナー」を実施してきた。本コースは、我が国の観光振興政策、観光産業及び国際観光振興の為の活動を紹介し、参加各国の観光振興政策等の現状と問題点について意見交換を行うことを目的としている。

コース開始から既に22年が経過し、この間61ヶ国から340名の研修員が参加した。

このたび、本コースに参加した帰国研修員に対するアフターケア業務の一貫として、昭和62年2月18日から3月6日までの17日間、ネパール、マレーシア及びフィリピンの3ヶ国に帰国研修員フォローアップチームを派遣し、本コース改善の為に、各国の帰国研修員及び関係機関との意見交換並びに活動状況の調査を行った。本報告書は、このフォローアップチームの調査、報告を取りまとめたものである。

本コース関連巡回指導チームが昭和53年度にタイ、スーダン及びトルコに派遣され、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題、要望等に関して調査、報告及びコース改善の為の幾つかの指摘があったが、今回の調査、報告によりこれらの点に関し更に内容が深められたと確信する。

本報告書が、今後の研修コース、更に研修員受入事業の改善に資することができれば幸いである。

末筆ながら、本件実施の為に御協力を賜った外務省、運輸省、国際観光振興会及び現地で数々の御指導と御協力を賜った在外公館並びに関係機関に対し、深甚の感謝を表する次第である。

昭和62年6月

研 修 事 業 部

部 長 岡 部 一 夫

目 次

I. 派遣チームの概要	1
1. 派遣目的	1
2. 派遣期間	1
3. 調査日程	1
4. 団員構成	3
5. 面会者リスト	4
II. 調査内容	11
1. 調査・指導T/R	11
2. 調査対象国及び訪問先機関	11
III. フォローアップ調査結果	12
1. 当該国における観光の現況及び関係機関の活動	12
1) ネパール	12
2) マレーシア	13
3) フィリピン	15
2. 帰国研修員の現況	20
3. アンケート調査の結果及び分析	20
(1) アンケート調査票の回収	20
(2) アンケート調査結果及び分析	20
(3) 研修効果の評価	24
(4) 帰国研修員のコース改善に対する要望	24
4. 当該国関係機関のコース改善に関する要望等	25
1) ネパール	26
2) マレーシア	26
3) フィリピン	26
5. コース改善に関する提言	27
IV. 公開セミナーの実施概況	28
1. ネパール	28
2. マレーシア	29
3. フィリピン	31

V. おわりに	33
---------	----

(附属資料)

1. 観光振興セミナーの概要	37
2. 観光振興セミナー研修員受入実績	45
3. 帰国研修員リスト	49
① ネパール	51
② マレーシア	53
③ フィリピン	56
4. 帰国研修員に対するアンケート調査票	59
5. 当該国訪問機関に提出した英文報告書	69
6. 公開セミナー資料	81

I. 派遣チームの概要

1. 派遣目的

本チームは、帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、本セミナー関連機関及び帰国研修員に対し、現地でセミナーを主体とした技術指導を行うとともに、帰国研修員の動向、研修成果の活用度、本セミナーに対する要望、帰国研修員の当面する諸問題等について意見交換を行い、また各国の観光政策並びに国際観光の状況等につき調査を実施することにより、今後の研修コースのカリキュラム編成等を通して本セミナーの運営改善に役立てることを目的として派遣される。

2. 派遣期間

昭和62年2月18日から昭和62年3月6日まで（17日間）

3. 調査日程

日 順	月日	曜 日	行 程	宿 泊 地	摘 要
1	1987年 2月18日	水	JL717 東京(12:50) → バンコック (17:35)	バンコック	
2	19	木	TG311 バンコック(11:30) → カトマンズ (13:15) JICA 打合せ	カトマンズ	日程打合せ及びアンケート調査票の回収
3	20	金	Ministry of Tourism 表敬 Ministry of Finanie 表敬 National Planning Commission 表敬 日本大使館表敬	カトマンズ	本コース関連機関インタビュー（面会者リスト参照） 外国援助局にてインタビュー（ " ） 研修受入関連インタビュー（ " ）
4	21	土	資料整理	カトマンズ	
5	22	日	公開セミナー 帰国研修員に対するアンケート調査	カトマンズ	

6	23	月	Hotel Management & Tourism Training Centre 訪問 JICA, 大使館報告		施設見学及び活動状況調査 (面会者リスト参照) Ministry of Tourism へてBrief ReportをJICA事務所に提出
			TG312 (18:30) カトマンズ(14:15) →バンコック	バンコック	
7	24	火	TG415 バンコック(9:00) →クアラルンプル(11:50) JICA打合せ	クアラルンプル	日程打合せ及びアンケート調査票の回収
8	25	水	日本大使館表敬 Tourist Development Corporation表敬 帰国研修員に対するアンケート調査	クアラルンプル	本コース関連機関インタビュー (面会者リスト参照)
9	26	木	公開セミナー 帰国研修員に対するアンケート調査	クアラルンプル	(Public Services Department研修担当官へのインタビューも含む)
10	27	金	帰国研修員に対するアンケート調査 JICA, 大使館報告	クアラルンプル	Tourist Development Corporation へてBrief ReportをJICA事務所に提出
11	28	土	資料整理	クアラルンプル	
12	3月1日	日	MH063 クアラルンプル(10:00) →マニラ(14:55)	マニラ	
13	2	月	JICA打合せ		日程打合せ及びアンケート調査票の回収

			日本大使館表敬 National Economic and Development Authority表敬 Department of Tourism 表敬	マニラ	研修受入関連インタビュー（面会者リスト参照） 本コース関連機関インタビュー（ " ）
14	3	火	Asian Institute of Tourism, Univ. of Philippines表敬 帰国研修員に対するアンケート調査	マニラ	" , 施設見学及び活動状況調査（面会者リスト参照）
15	4	水	公開セミナー 帰国研修員に対するアンケート調査	マニラ	
16	5	木	資料整理	マニラ	
17	6	金	JICA, 大使館報告 マニラ(16:00) JL742 →東京(20:40)		Department of Tourism あてBrief ReportをJICA事務所に提出

4. 団員構成

氏名	担当業務	所属先
中村 義宗	総括	運輸省国際運輸観光局政策課
秋山 修	研修企画	国際観光振興会国際協力部
石塚 幸寿	業務調整	国際協力事業団研修事業部研修第一課

5. 面会者リスト

THE NAME OF THE PEOPLE AND THE DATE THE FOLLOW-UP TEAM MET
(AUTHORITIES, EX-PARTICIPANTS, THE PEOPLE CONCERNED WITH IN DUE ORDER)

<ネパール>

FEBRUARY 19, 1987 (THU.)

1. Mr. Hideo Ono Resident Representative
JICA NEPAL OFFICE

FEBRUARY 20, 1987 (FRI.)

1. Mr. Birendra N. Khunjeli Secretary
Ministry of Tourism
2. Mr. Janak Thapa Director General
Department of Tourism, Ministry
of Tourism
3. Mr. B. R. Chalise Deputy Director General,
Department of Tourism, Ministry
of Tourism
4. Mr. P. P. Dahal Joint Secretary,
Ministry of Finance
5. Mr. M. M. Amatya Joint Secretary,
National Planning Commission
6. Mr. Kazuo Kaneko Ambassador,
Embassy of Japan
7. Mr. Tadao Hashimoto Third Secretary,
Embassy of Japan
8. Mr. Shozo Miyahara General Manager
Hotel Himalaya Kathmandu
9. Mr. Takashi Miyahara Director
Hotel Himalaya Kathmandu

FEBRUARY 22, 1987 (SUN.)

(Ex-Participants, in due participated year)

1. Mr. Gopal Bahadur Subedi
2. Mr. Din Kaji Shakya
3. Mr. Raj Bhai Sakya

4. Mr. Khagendra Prasad Parajuli
5. Mr. Lok Nath Dhakal
6. Mr. Hari Sharan Shrestha
7. Mr. Umesh Kumar Singh
8. Mr. Bishnu Hari Nepal
9. Mr. Tulshi Kumar Karmacharya

FEBRUARY 23, 1987 (MON.)

1. Mr. Yajna Raj Satyal

Project Manager
Hotel Management & Tourism
Training Centre

<マレーシア>

FEBRUARY 24, 1987 (TUE.)

1. Mr. Takao Matsuzaki Resident Representative,
JICA Malaysia Office
2. Mr. Norinobu Hayashi Deputy Resident Representative,
JICA Malaysia Office
3. Mr. Kenichi Imai Assistant Resident Representative,
JICA Malaysia Office

FEBRUARY 25, 1987 (WED.)

1. Mr. Yasuhiro Oyamada First Secretary,
Embassy of Japan
2. Ms. Poon Siew Lean Director of International
Relations and Convention,
Tourist Development Corporation,
(TDC) Malaysia
3. Mr. Sharin Aminullah Tourist Officer,
Development & Project Management
Division,
TDC
4. Ms. Rafiah bte Khalid Tourist Officer,
Research & Training Division,
TDC
5. Ms. Noor Aine bin Ismail Tourist Officer,
Marketing Division,
TDC
6. Mr. Richard Robin Poi Tourist Officer,
Marketing Division,
TDC

7. Mr. Azizan Bin Nordin
Senior Tourist Officer,
Enforcement & Facilitation Division,
TDC
8. Mr. Mohd. Rais Mohd. Saman
Senior Tourist Officer,
Project & Development Division,
TDC
9. Ms. Zailin Alwee
Tourist Officer,
Marketing Division,
TDC
10. Ms. Fatimah Normasila bth Musa
Tourist Officer,
International Relation & Convention
Division,
TDC

FEBRUARY 26, 1987 (THU.)

1. Mr. Zawawi Abd. Rahman
Assistant Director
Public Services Department (PSD)
Career & Training Division
2. Ms. Rothiah bte Omar
- do -
3. Mr. Ruslan bin Khatib
Deputy Director,
National Productivity Centre (NPC)
4. Mr. Md. Jasni Abd. Aziz
Senior Training & Investigating
Officer,
Institute of Hotel & Tourism Management,
NPC
5. Mr. Sharin Aminullah
TDC
6. Mr. Richard Robin Poi
TDC
7. Ms. Fatimah Normasila bth Musa
TDC
8. Ms. Rafiah bte Khalid
TDC

- 9. Ms. Noor Aine bth Ismail TDC
- 10. Mr. Yasuhiro Oyamada Embassy of Japan
- 11. Mr. Kenichi Imai JICA Malaysia Office

<フィリピン>

MARCH 2, 1987 (MON.)

1. Mr. Moriya Miyamoto Resident Representative,
JICA Philippines Office
2. Mr. Katsuhiko Oshima Deputy Resident Representative,
JICA Philippines Office
3. Mr. Hiroyuki Singyochi First Secretary
Embassy of Japan
4. Ms. Soledad V. Ubaldo Executive Officer,
Special Committee on Scholarships
and Chief, Scholarship Affairs
Secretariate, National Economic and
Development Authority, (NEDA)
5. Mr. Sostenes L. Campillo, Jr. Deputy Minister,
Department of Tourism (DOT)
6. Ms. Narzalina Z. Lim Deputy Minister,
DOT
7. Mr. Parciso Bufete Acting Field Officer,
DOT
8. Ms. Myriam P. Guillen Assistant Manager,
Subsidiary Operations Department,
Philippine tourism Authority (PTA)
9. Ms. Rosario dela Cruz-Afuang Tourism Field Coordinator,
DOT
10. Ms. Stella Maria L. de Guia Tourism Field Coordinator,
Baguio Field Office, DOT

MARCH 3, 1987 (TUES.)

1. Mr. Jose P. Mananzan Vice-President for Public Affairs,
University of the Philippines (UP)
2. Mr. Reynaldo G. Alcid Training Assistant,
Division of Tourism Extension Services,
Asian Institute of Tourism (AIT),
U.P.

3. Ms. Miguela Maniago Mena Research Assistant,
Division of Tourism Research & Publication
AIT, UP
4. Ms. Teresa F. Bernabe Parajuli Acting Executive Vice President,
UP

MARCH 4, 1987 (Wed.)

1. Mr. Atty. Evelio R. Leonardia Tourism Field Coordinator,
Bacolod Field Office, DOT
2. Mr. Edwin G. Trompeta Tourism Field Coordinator,
Iloilo Field Office, DOT
3. Mr. Arcangel B. Vargas Tourism Promotion Officer,
Legaspi Field Office, DOT
4. Ms. Rosario dela Cruz-Afuang DOT
5. Ms Myriam P. Guillen PTA
6. Ms. Stella Maria L. de Guia DOT
7. Ms. Joan Gonzales Staff Economist,
NEDA
8. Ms. Gigi Liwanag Tourism Field Coordinator,
DOT
9. Mr. Reynaldo G. Alcid AIT, UP
10. Ms. Miguela Maniago Mena AIT, UP

Ⅱ. 調 査 内 容

1. 調査指導 T/R

本チームの調査指導事項は次の通りである。

- 1) 帰国研修員の動向及び現在の職務、研修成果の活用度に関し調査する。
- 2) 本セミナー関連機関の概要、帰国研修員の活用度、研修員受入れに対する要望、望まれる研修内容に関し調査する。
- 3) 観光分野での我が国の政策、施策等最新情報を紹介し、当該国に於ける我が国の観光行政の理解を深め、また観光振興に関し意見交換する。
- 4) 当該国の観光分野に関する情報を収集する。

2. 調査対象国及び訪問先機関

調査対象国は、ネパール、マレーシア、フィリピンの3ヶ国である。

また、各国での訪問先機関は次のとおり。

- 1) ネパール Ministry of Tourism
 National Planning Commission
- 2) マレーシア Tourist Development Corporation (TDC)
- 3) フィリピン Department of Tourism (DOT)
 Asian Institute of Tourism (AIT), University of the Philippines (UP)
 National Economic and Development Authority (NEDA)

Ⅲ. フォローアップ調査結果

1. 当該国における観光の現況及び関係機関の活動

1) ネパール

イ) 観光の現況

世界の巨峰ヒマラヤを頂いたこの国はヒマラヤへの登山口として、また、これらの雄大な自然観光資源を活かした山岳リゾート観光国として知られている。

1985年にネパールを訪れた外国人旅行者は18万人で、これを国籍別に見ると、インドが全体の3割に当たる5.4万人と最も多く、次いで米国(1.9万人)、英国、西独、仏、日本が1万人台で続いている。次に、訪問旅行者を目的別に見ると、観光目的が全体の70%であり、トレッキング・登山目的は16%と予想されるほどは多くない。

米、小麦、メイズといった農業が主要な産業であるこの国にとっては観光収入が貴重な外貨獲得源となっている。1985年の観光収入は4,200万ドルであり、これは前年の輸出総額が約1億5,000万ドルであったことを考えると、観光収入が輸出の約3割にも達しており、このことからこの国の観光の重要性を伺い知ることができる。

ネパールの代表的観光地はこの国の政治、経済、文化の中心であるカトマンズ及び西部盆地のポカラであり、一般観光客が利用するホテルはカトマンズで30軒余り、ポカラでは僅か7軒にすぎず、全国内のホテルベッド数6,000ベッドのうち約半分以上がカトマンズに集中している。自然観光資源に恵まれたこの国の観光開発は全くこれからという状況であり、カトマンズ、ポカラを含めた既存観光地の整備を拡充するとともに、新たな観光地開発と宿泊施設の増強を図ることが期待されている。特に、スケールを大きくした上高地を想わせる美しい自然景観に恵まれたポカラの開発ポテンシャルは高く、自然環境の保護に十分注意を払った開発と、カトマンズからのアクセスルートとして重要なポカラ空港の整備及び道路施設の改良が強く望まれている。

ネパールの観光開発計画は、1974年に西ドイツ政府の協力によってマスタープランが作成された。現在政府が作成している第七次国家開発計画(1985~1990年)においても観光開発の必要性と観光振興計画がネパール開発の重要な柱として盛り込まれている。政府は、観光振興策の第一歩として、国内旅客需要に対応した空港網整備計画の検討に入っている。また、国際旅客の今後の増大に対処するため、カトマンズのトリブベン国際空港の新ターミナルが現在、アジア開発銀行のローンで建設されているところである。

ネパール政府は、観光客の誘致増大を図るため、特に日本人旅行者の増大を強く希望しており、このための我が国政府の協力を期待すると同時に日・ネパール間直行便の開設等を話し合う航空協議の開催、観光開発計画及び空港網整備計画に対する我が国政府の協力を期待している。

自然観光資源に恵まれたこの国の観光振興はすべてこれからの開発に待たれているといっても過言ではなく、観光はその国のトータルなイメージを表現するものであり、宿泊・交通施設の整

備を図ることは勿論、上下水道といった生活衛生設備や通信施設の改良をも図ることが重要であり、また、観光分野での人材育成についてもその充実が期待されている。

ロ) 関係機関の活動—ネパール観光省の活動状況および組織図—

ネパール政府は、観光振興の重要性を認識し、1977年、商工省観光局を観光省に昇格させた。観光省は、第1図組織図にあるとおり、観光局と航空局の二局があるが、観光局には管理課、企画課、財政課、振興（プロモーション）課といった各課の他に地域特性から登山課があるのが特色である。

また、ロイヤルネパール航空は国営企業として観光省の管轄下にある。観光省は、旅行者、ホテル、ガイド等の観光業者に対する指導・監督などを行っているほか、次の業務を行っている。

- ① 国内観光地の開発・整備
- ② ロイヤルネパール航空との海外共同宣伝
- ③ ホテル・観光トレーニングセンターの運営
- ④ ホテルの格付け
- ⑤ プロモーション用のパンフレット・ポスター等の作成・配布

ネパールでは各省庁間の人事交流が盛んであり、観光省から他省への異動もよくみられる。

開発調査に熱意があり、この面での国際協力を強く求めている。

現在、観光省直轄の海外観光宣伝事務所が設置されていない為、ネパール観光の十分な宣伝が出来ない状態にある。

2) マレーシア

イ) 観光の現況

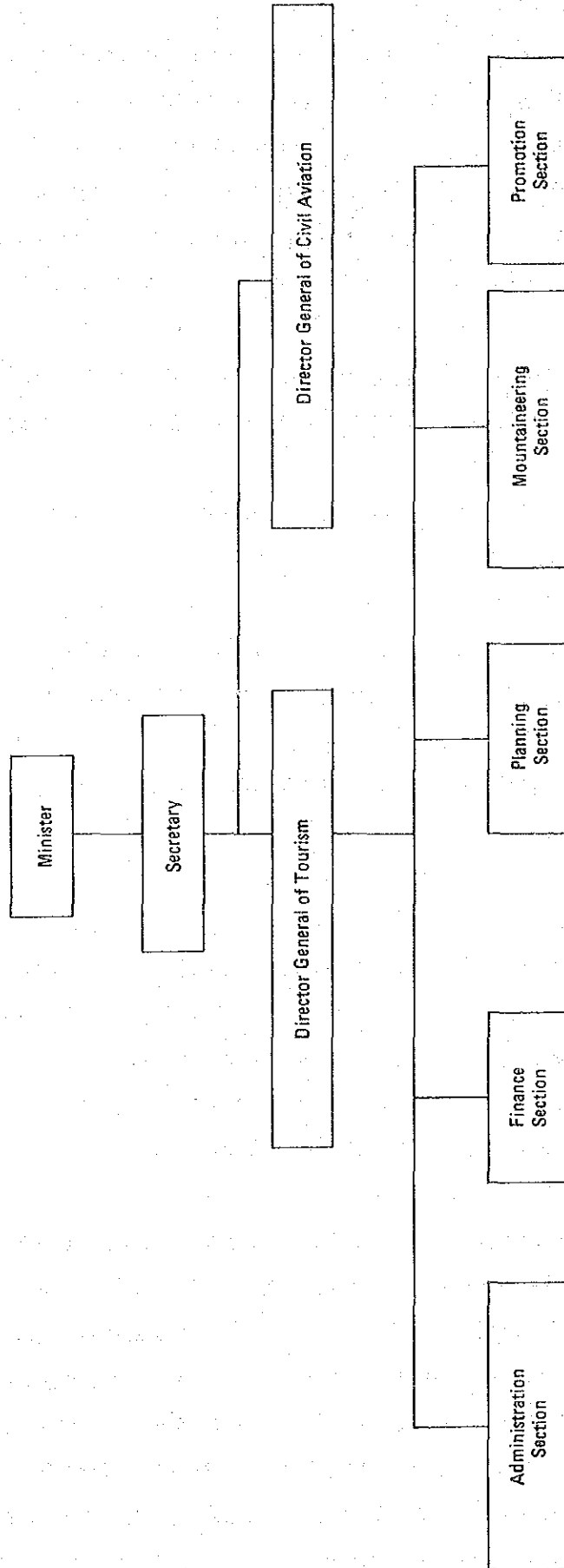
1985年に半島マレーシアにおいて受入れた外国人旅行者数は、290万人（推計）、対前年比4.6%増であり、サバ・サラワク（ボルネオ島）では17.4万人であった。また、同年の観光収入は14億マレーシアドル（約5億8千万米ドル）の対前年比8.5%増であった。次に、入国外客の国籍別内訳を見ると、隣国シンガポールが204万人と全体の7割を占めており、続いてタイ（19万人）、日本（12万人）、豪州（7.8万人）の順になっている。

マレーシアは典型的な一次産品輸出国であるため（ゴム、スズ、木材、パーム油、こしょう）、近年の深刻な不況に悩んでおり、政府としては農業の多角化を図るとともに工業化を積極的に推進していた。特に観光収入の増大が国際収支の改善に最も貢献するものであり、しかも観光が雇用機会の拡大と地域開発にも寄与することから、この発展に強い期待が寄せられている。

したがって、この国においては比較的に新しい産業である観光産業の健全な発展を図るための各種政策が講じられている。政府は民間部門からのホテル投資の促進を図るための税制上の優遇措置を講じているばかりでなく、観光ガイドや旅行者の適正な営業と旅行者の保護を目的とした法体系の整備を行った。その結果、政府の登録を受けた者でなければそれぞれの営業ができないことになった。この様な政府の積極政策により、クアラルンプール、ペナン等の主要観光地に

第1図 ネパール観光省の組織図

MINISTRY OF TOURISM



においては多くの大規模ホテルの建設が促進され、最近ではむしろ過剰気味であるとも言われている。

また、政府は観光分野における人材養成にも非常に力を入れており、マラ工科大学、マレイシア生産性本部、観光開発公社といった機関において、ホテル、旅行業、観光ガイド、レストランといった部門の人材育成が行われている。

このような状況の中で、マレイシア政府は観光開発を中心とした全国総合開発調査について我が国政府へ協力を要請し、これを受けて現在、JICAベースのフィジビリティ・スタディ調査が行われている。隣国シンガポールへの日本人旅行者数が毎年40万人であることに比較して、マレイシアへはその3分の1にすぎないが新しい観光魅力の創出と宣伝の仕方によってはもっと日本人旅行者を増やすこともできると思われる。マレイシア政府は日本人観光客の増大を強く望んでいるとともに、ルックイースト政策にも見られるごとく、観光分野での我が国の技術・経験を高く評価している。

ロ) 関係機関の活動—マレイシア開発観光公社の活動状況および組織図—

マレイシア開発観光公社 TDC Malaysia (Tourist Development Corporation of Malaysia) は1972年、通商産業省の下部機関として設立されたが、近く昇格の動きもある。

活動は多岐にわたっている。

- ① 国内観光地の開発、調査、整備
- ② 観光調査、統計、分析
- ③ プロモーション用のパンフレット・スライド・映画・ポスター等の作成と配布
- ④ 海外観光宣伝事務所（日本、香港、タイ、シンガポール、豪州、英国、西独、米国）を通じてのマーケティング
- ⑤ マーケット地域からのプレスの招請
- ⑥ 有力紙誌へのプロモーション広告の出稿
- ⑦ 国際的トラベルショーへの参加
- ⑧ セールスマッションの派遣
- ⑨ マレイシア航空との共同事業・共同宣伝
- ⑩ コンベンションの誘致
- ⑪ リージョナルオフィス（ペナン、セランゴール、ジョホール、テレンガス、サバ、サラワク）の運営

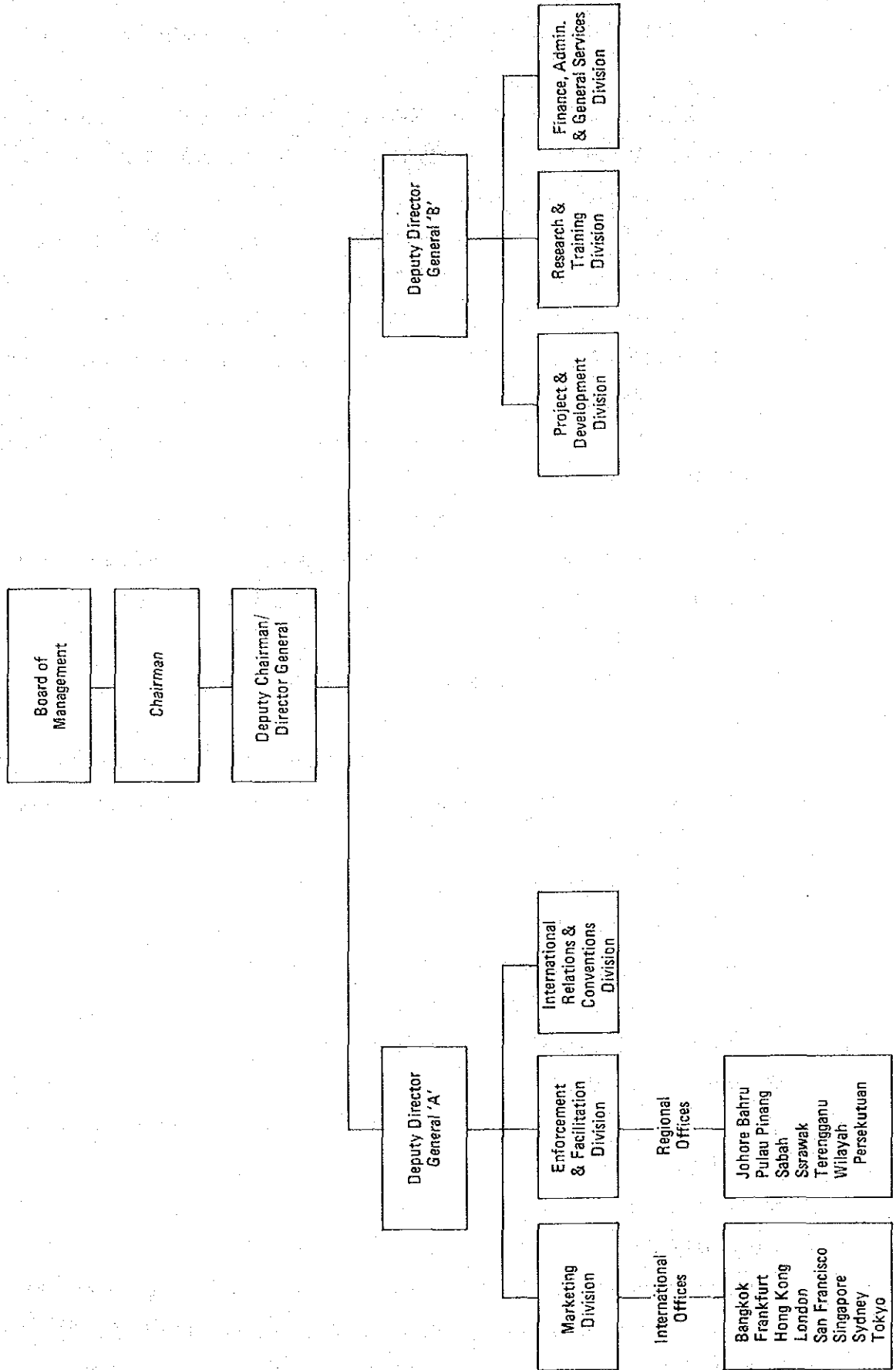
3) フィリピン

イ) 観光の現況

1986年にフィリピンが受入れた外国人旅行者数は78万人であり、これは対前年比1.1%増であった。これを国籍別に見ると、まず米国が20万人、次いで日本（13.4万人）、香港（7.6万人）、豪州（4.6万人）、台湾（3.5万人）と続いている。フィリピンが最も多くの外客を受入れたのは

第2図 マレイシア観光開発公社の組織図

EXISTING OVERALL ORGANIZATION STRUCTURE OF TDC



1980年の100万人であり、この年には日本人も最高の26万人を記録した。しかし、この頃から、日本人の東南アジア諸国への不健全旅行に対する非難が内外のマスコミ等から取り上げられたため、漸次減少を始めた。近年の政情不安の為、外客が減少していたところであるが、アキノ新政権成立後は国内政情も回復しつつあり、1986年では僅かであるが増加した。

1985年の観光収入は5億700万ドルであり、これはこの国の外貨収入源である半導体輸出（10億5,600万ドル）、出稼ぎ収入（6億9,400万ドル）、衣料輸出（6億2,300万ドル）に次いで第四番目という重要な地位を占めている。このため、観光客の減少は単に外貨収入減としての、経済悪化を招くばかりでなく、観光産業の衰退と雇用の減少といった深刻な問題になっている。したがって政府は国内秩序の回復と政局の安定を最優先にしながら、観光産業の衰退を防ぐため国内観光の振興を積極的に図ろうとしている。この意味からも新たな観光地の開発整備を行うことが重要になってきている。新政権での観光省は、観光業界と協力して観光地開発の検討に入っており、特に、日本人ハネムーン向けの新たなデスティネーション開発に努力している。

昨年末発生した日本人ビジネスマンの誘拐事件にみられるようにフィリピン国内の治安が一段と悪化し日本人旅行者が大幅に減少したが、同事件の解決にともない今後の観光客の増大が期待されている。また、日本人の観光客が最大の26万人を数えた1980年は、日本人海外旅行者総数（391万人）の約6.7%に当たるが、昨年はこの比率が2.4%に減少しており、本年は更に少なくなることが懸念されている。

しかし、日本人旅行者が減少しているとはいえ、依然として第二位の地位にあり、かつては日本が最大のマーケットであったことを考えるとこの国が我が国に対する期待の大きいことはアキノ大統領の来日後に行われた若い女性100人に対する招待旅行にもその熱意をうかがうことができる。

ロ) 関係機関の活動ーフィリピン観光省の活動状況と組織図ー

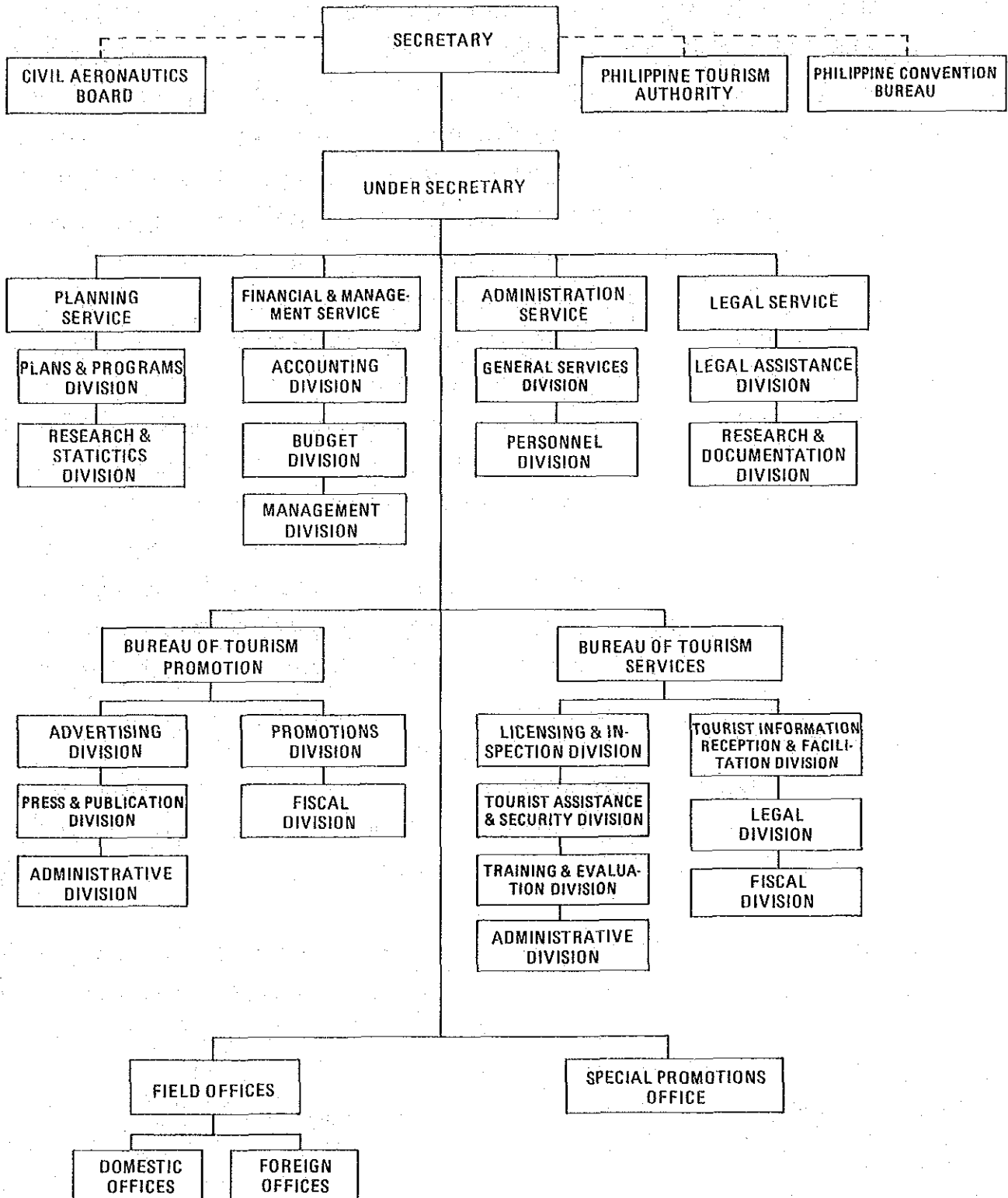
フィリピン観光省 (Department of Tourism) は、国内観光・国際観光を含めた観光全般の行政機関として、Philippine Tourism Authority (フィリピン観光公社)、Civil Aeronautics Board (民間航空委員会)、Philippine Convention Bureau (フィリピン・コンベンション・ビューロー) を管轄下に置いている。

観光省は、観光に関わる行政一般、観光予算の策定、旅行業者・ホテル等の監督等の他、海外観光宣伝事務所を通じてのプロモーション、フィリピン航空との共同事業、コンベンションの誘致、国内フィールドオフィスを通じての観光地の整備、プロモーションalエイドの作成・配布、観光省職員の研修、などを行っている。

アキノ新政権に於ける観光省の組織については特別な変化は見られない。

第3図 フィリピン観光省の組織図

DEPARTMENT OF TOURISM



第1表 帰国研修員の調査時に於ける職種別分類

1) ネパール

職 種	人 数	観 光 関 連	
		有り(人)	無し(人)
Ministry of Labour	1		1
" Finance	3		3
" Tourism	6	6	
National Education Committee	1		1
不 明	1		1
計	12	6	6

2) マレーシア

職 種	人 数	観 光 関 連	
		有 り	無 し
Univ. of Technology	1		1
National Productivity Centre	1	1	
Tourist Development Corporation	6	6	
Private Company	2	1	1
Bank	1		1
自 営	1		1
不 明	2		2
計	14	8	6

3) フィリピン

職 種	人 数	観 光 関 連	
		有 り	無 し
Dept. of Foreign Affairs (USA在住)	1		1
House Wife	1		1
Astin Institute of Tourism, U.P.	3	3	
Dept. of Tourism	5	5	
Philippine Tourism Authority	1	1	
不 明 (うちUSA在住3名)	7		7
計	18	9	9

2. 帰国研修員の現況

研修員として来日した当時は、すべて観光関連の仕事に従事していた訳であるが、当チームによる調査時には、三ヶ国全体で観光関連の仕事に従事している者は52%、従事していない者25%、不明が23%であった。

このうち、観光分野の仕事に従事していない者について職種別内訳を国別でみると（第1表参照）、ネパールでは、労働省、大蔵省といった他省への異動が目立つ一方、マレーシアでは民間部門への転身がみられる。

また、不明者の多いフィリピンについては、国外居住者が4名を数えている。

帰国研修員の中には、政府機関で高い地位を占めている者が数人見受けられた。

3. アンケート調査の結果及び分析

(1) アンケート調査票の回収

本セミナーの帰国研修員は、ネパール12名、マレーシア14名、フィリピン18名の計44名であるが、フィリピンの帰国研修員のうち国外居住者4名は調査対象からはずすこととし、残り計40名をアンケート調査の対象とした。

調査実績は、3ヶ国合計で28名、回収率は70%であった。（第2表）

第2表 アンケート調査票回収率

国名	調査対象数 (人)	回収した調査票の数	回収率 (%)
ネパール	12	9	75
マレーシア	14	11	79
フィリピン	14	8	57
計	40	28	70

これを国別でみると、ネパール、マレーシアは、回収率が各々75%、79%と高いのに対し、フィリピンは57%と低かったが、これは、来日当時の所属機関から転職し、その後の行方がわからなくなった為に追跡できなかったものが多かったからである。また、アンケート調査票を提出した研修員のうち、面談できたのは、ネパール9名、マレーシア8名、フィリピン8名の計25名であり、調査票の提出はなかったが面談に応じた研修員はフィリピンの1名であった。

(2) アンケート調査結果及び分析

ここでは、アンケート調査項目毎に集計し、補足説明を加えることとした。なお、集計は回答数に対する割合（パーセント）で示した。

1) 本セミナーの参加時の期待に対する達成度

三ヶ国全体でみると、回答者28名のうち本セミナー研修に『非常に満足した』と考えている研修員は19%、『かなり満足した』と考えている者65%、『多少満足した』者が16%であった。

これを国別でみると第3表のとおりである。

第3表 当初の期待に対する達成度 (%)

達成の程度	ネパール	マレーシア	フィリピン
非常に満足	33	11	13
かなり満足	67	56	75
多少満足	0	33	12
かなり不満	0	0	0
非常に不満	0	0	0

この項目に関する意見として

イ. 観光振興に関し多くの知識と経験を得ることができた。(多数)

ロ. 日本の観光について知ることが出来、また日本の文化に触れ、日本人を知るチャンスを与えてくれた。(ネパール、マレーシア、フィリピン)

ハ. 多くの友人を得ることができた。(フィリピン)

また、この反面、

ニ. 講義に於ける言葉の問題 (マレーシア、フィリピン)

ホ. カリキュラムで実習 (Practical Training) が無い。(マレーシア)

ヘ. 観光の教育、トレーニング機関に関する時間がもう少しほしかった。(フィリピン)

と言った意見もみられた。

第4表 研修で得た知識をその後どの程度活用できたか。(%)

活用の程度	ネパール	マレーシア	フィリピン
100 %	33	0	25
	33	22	38
50	22	78	37
	0	0	0
0	0	0	0
(無回答)	12	0	0

2) 研修で得た知識をその後どの程度活用できたか

三ヶ国全体でみると、『100%活用した』と回答した研修員は19%、『75%活用した』が31%、

『50%活用した』が46%であり、それ以下は皆無であった（無回答4%）。これを国別で見ると第4表のとおりである。

この項目に関する意見として、ネパールでは、現在も観光分野で働いている研修員はかなり役立っているという意見が多く、また観光分野外で働いている他の省へ移った研修員においても有用であるとの答が目立った。マレーシアでは、あまり活用していない（50%）との回答が多かった。これは、観光分野外で働いている研修員はもとより、TDC (Tourist Development Corporation) で働いている研修員の中でも、本セミナーで研修したことをそれほど活用する職場環境にないことを示している。

フィリピンでは、回答者のすべてが観光分野に関係ある職場で働いているが、その仕事の内容により、活用度が異なっている。また、組織の経済的理由により、機器の導入が出来ない為日本で研修したことを生かせないとの意見もあった。

3) 研修後改善されたこと

この項目では、職場条件、責任感、昇給等8項目について、帰国後の改善点について意見を出してもらった（第5表参照）

第5表 研修後改善されたこと

改善項目	ネパール	マレーシア	フィリピン	全体
職場条件	44	22	38	35
責任を持つようになった	78	67	75	73
将来の展望	22	56	50	42
昇給	0	56	13	23
転職	0	11	13	12
仕事の内容	11	11	50	23
職業の専門化	67	33	75	58
国際的な接触	56	44	75	58

上記項目で目立つのは、帰国後自分の仕事に責任を持つようになった（自覚が出てきた）という意見が3ヶ国とも多く、また、国際的な接触の機会も多くなり、専門的な分野への仕事に取り組むようになったと答えたのが50%以上あった。これらを総合すると、研修員に仕事に対する自覚が出てきたことが、本セミナーの一番大きな効果であり、また、研修員に対する職場の上司の評価が加味され、仕事への積極的な取り組み、仕事の広がりが出てきたものと思われる。

この『改善された程度』について、第6表に見られるように半数以上の研修員が、積極的な評価を下している。ただし、マレーシアに於ける評価が低いのは、前項2) 研修で得た知識をその後どの程度活用できたか、において低い評価が出たこととも一致している。

第6表 改善された程度は？

改善の程度	ネパール	マレーシア	フィリピン	全 体
100 %	67	33	63	54
50	33	56	37	42
0	0	0	0	0
(無回答)	0	11	0	4

4) 現在の仕事に対する障害（観光関連職種の回答者のみ対象）

この項目では、国によって事情が異なっている為、仕事に対する制約要因、障害も違っている。

(第7表参照)

第7表 現在の仕事に対する障害（観光関連職種の回答者のみ）

(単位 %)

欠 乏	ネパール	マレーシア	フィリピン
訓練された人材	100	63	25
機 材	0	25	75
資 金	75	75	100
外国人専門家	0	25	0
研究施設	25	38	50
将来展望	25	25	25
指導者	25	25	13
文 献	25	50	63
マーケット	0	13	13
国立トレーニングセンター	50	13	25
輸送システム	25	13	13
外 貨	0	0	13

制約要因	ネパール	マレーシア	フィリピン
経済状態	50	63	88
運営のまずさ	75	25	25
外国の影響の強さ	0	0	0
政治情勢	25	0	63
頭脳流出	0	0	0
普及体制	50	13	50
自国の不満足な研修制度	75	13	75
機器管理のまずさ	25	13	38

このうち、各国とも比較的多かった障害は、『資金の欠乏』であり、『人材不足』がネパール、

マレーシア、『機材不足』がフィリピンで目立った。また、制約要因として『運営のまずさ』がネパール、『政治情勢』がフィリピン、自国の研修制度の不備がネパール、フィリピンで目立った。

(3) 研修効果の評価

本調査は、ネパール、マレーシア、フィリピンの帰国研修員計44名について、日本での研修の成果及び帰国後の状況について追跡調査を行ったが、前項の調査結果から次のことが結論づけよう。なお、調査回収率は、フィリピンが57%と低かったが、三ヶ国全体で70%あった。

- 1) 帰国研修員の中、現在も観光関連の仕事に従事している者は約半数であった。
- 2) 日本での研修が有益であったと考えている者は多数を占め、この理由として観光振興に関する多くの知識、経験を得ることができたことを挙げている。
- 3) 研修で得た知識が現在の仕事でどの程度活かされているかについては、非常に活用していると答えていた者もあるが、大多数は、多少活かしている程度で、積極的に活かされてはいないと判断される。これは観光関連の仕事に従事していない者が約半数を占めていることも、消極的評価の一因であろう。
- 4) 研修後の変化で一番目立ったのは、研修員が仕事に対する自覚が出てきて、その取り組みが積極的になったことである。このことは、研修の成果の1つとして強調できよう。

(4) 帰国研修員の、コース改善に対する要望

各国研修員から出たコース改善の為の主な提言を列記すると次のとおりである。

A. 本セミナー改善のための提言

① 研修時期及び期間について

- イ) 冬以外ならいつでもよい。(フィリピン)
- ロ) 秋が理想的である。(フィリピン)
- ハ) 10~12月の時期が良い。(フィリピン)
- ニ) 春に4週間位、又は春に3ヶ月のコースが良い。(マレーシア)
- ホ) 5~6月の開催を望む。(ネパール)
- ヘ) 2ヶ月間は理想的である。(フィリピン)
- ト) 2ヶ月は短い。但し4ヶ月以内。(フィリピン)
- チ) 期間は1.5ヶ月くらいがよい。(フィリピン)
- リ) 3ヶ月くらいが適当である。(フィリピン)
- ス) 現行の期間よりもっと長く。(ネパール)

② 研修内容について

- イ) ケーススタディの採用及びマーケティング・スタディーの充実(マレーシア)
- ロ) 実習とフィールドワークをもっと入れてほしい(ネパール)

ハ) カントリーレポートのプレゼンテーションは大変有用であり、もっと時間を割くべきである。(フィリピン)

ニ) 国内観光 (Domestic Tourism) のプログラムを増やしてほしい。(フィリピン)

ホ) 観光開発のノウハウを教えてほしい。(フィリピン)

ヘ) カントリー・プレゼンテーションには日本側のより積極的な参加を希望 (マレーシア)

ト) セミナー開始 2 週間を集中日本語会話に当ててほしい。(マレーシア)

③ 研修旅行、見学について

イ) 実地に観光施設を見ることができ有用であった。(フィリピン)

ロ) 行先地、宿泊ホテル等を各人の好みで選択出来るとよい。(フィリピン)

ハ) 「学習」の場であるべきで、更に内容を充実して欲しい。(フィリピン)

ニ) 宿泊施設・教育機関の視察が有用であった。(フィリピン)

④ 講師について

イ) 英語を“Official Language”としているのに英語の不得手な講師がいた。(フィリピン)

ロ) 講師の選定にあたっては英語の流暢な者が「絶対条件」である。(フィリピン)

⑤ その他

イ) 週末もプログラムに組み入れたらよい。(フィリピン)

ロ) ホテルの分類に関する情報、雑誌類の提供を希望。(ネパール)

B. 新規セミナーに関する要望

イ) 帰国研修員を対象とした企業内研修を希望。テーマとしては観光産業における管理と経営が望ましい。(マレーシア)

ロ) 観光経営セミナー・運輸経営セミナー又はホテル経営セミナー。(マレーシア)

ハ) 帰国研修員を対象とした専門分野のフォローアップコースを設置してほしい。(ネパール)

ニ) Ex-Participants のための「上級コース」の新設を望む。(フィリピン)

ホ) 観光分野の管理部門を主とした新コースの設立を望む。(フィリピン)

ヘ) コンベンションの専門コースの新設をのぞむ。(フィリピン)

以上の提言、要望のうち、A. 本セミナー改善のための提言に関しては、毎年コース終了時に提出される研修員の Final Report とあわせ、研修員の要望を把握しつつコースの内容に検討を加えていく必要がある。

また、B. 新規セミナーに関する要望では、本セミナーが既に20年を経過し、330名の研修員が参加していることから考えると、これの実施による効果は大きいと思われる。

4. 当該国関係機関のコース改善に関する要望等

各国とも、本セミナーに対する評価は高く、今後も実施してほしい、受入人数を増やしてほしい等との意見が強かった。国別にその評価をみると次のとおりである。

1) ネパール

帰国研修員12名中、現在観光省に勤務している者は4名と非常に少ないが、残りの者は大蔵省等他省庁に勤務している。これは、中央官庁では普通に見られることであり、特に昇進ポストがない場合に他省庁に移されるようである。

主要産業が農業であるネパールにおいて観光収入は外貨獲得源であり、したがって観光のもつ経済的社会的な重要性が認識されているため、本件セミナーは政府からも又研修員からも高く評価されている。

日本以外に観光分野のトレーニングを行っているのは、英国（BTAC）及びオーストラリア等があるとのことである。

今後のセミナーに関する意見を見ると、まず、帰国研修員を対象にした新設の Enhanced Course 又は Refreshed Training の提案が多く、観光振興セミナーに関しては内容を Tourism Promotion とともに Planning あるいは Development に関するものを希望している。

2) マレーシア

帰国研修員14名の内、現在TDC（マレーシア観光開発公社）に勤務している者は6名、NPCが1名、その他観光関係法人に2名とセミナーの知識が活かせるところに勤務している者が多い。

オーストラリアでの Tourism Administration Course での研修例の紹介があり、ここでは研修員の選択に基づき、一部の授業を①マーケティングリサーチ、②観光開発、③観光宣伝に分けて実施しているとのことであった。

観光振興セミナーでの知識が具体的に役立った例としては、NPC（マレーシア生産性本部）でのホテルマネジメントコースを設けた際あるいは同NPCで Institute of Tourism and Hotel Management を設立する際に大いに参考になったこと、また、ある州では、日本で行われている Walking Tourist Guide をそのまま採り入れているとのことであった。

3) フィリピン

新政権の樹立等により手続的に間に合わなかった為か、昭和61年度は観光振興セミナーへの参加がなかった。観光省の新幹部も本セミナーを高く評価しており、現地での公開講義には各地から帰国研修員を参加させてくれた。

フィリピン大学では日本でのセミナー参加経験は生徒に教えるだけでなく、観光産業の人々にも話すことができ、大変有益であると高く評価されていた。また、割り当てが原則として各国1名であるため観光省とは競争関係にあり、フィリピン大学からの参加は難しい状況にあるとのことであった。

日本以外の国への研修機会としてはイタリアが7か月のコースを設けているがほとんどの資料、テキストが伊語のものであるため、最初に伊語を学ばなければならないので効果的でないようである。後半は研修生の選択によりマーケティング又はプランニングに関して学ぶことになる。その他には豪州での8か月コースとして Tourism and Hotel Management あるいはシンガポールでの3年間の Hotel Management の Diploma コースがある。

5. コース改善に関する提言

各国の帰国研修員及び関係機関からの本コース改善に関する意見、希望を総合すると、本セミナーに対する総合評価は高いものの、各国の観光発展の度合い、社会構造の違い、あるいは研修員の専門分野の差異によりカリキュラムの内容に対する期待に若干の違いがあるようである。しかし、これらの要望の多くを満たすためには少なくとも、観光振興、観光開発及び観光教育の三分野のセミナーに分割して実施することができれば最も理想的であるが、直ちに実現することは難しく、今回の調査団としては次のとおり現在のコース内での改善について提言することとしたい。

- ① 観光振興セミナーのコース内で1週間位を観光宣伝、観光開発及び職業訓練の三講座に分け、これを研修員の来日後に選択できる仕組みにする。
- ② カリキュラムの中にケーススタディーを導入すること及び観光マーケティングに関しては、我が国が行っているマーケティング手法の紹介とともに諸外国による我が国に対するマーケティングについて紹介を充実させる。
- ③ カントリー・プレゼンテーションは研修員から自国の紹介の場としてばかりでなく他の国の実情をも理解できる場として非常に評価は高いので、可能であれば日本側の参加者の拡大を図り活発な情報交換ができることが望まれる。
- ④ 帰国研修員からの要望が多く出されている帰国研修員を対象とした「上級コース」の開設については、本件セミナーが20年以上経過しており、既に340名の研修生が参加しているという実績をみた場合、これらの対象者の中から更に推薦により選ばれた者に対し up-to-date な情報とトップ・マネジメントに関する研修を実施することができたならば、研修事業の目的をより一層達成させるものであると思われる。

以上の提言に関しては、今回調査団がアジア地域の三か国のみであったため、全ての帰国研修員等の意見を反映している訳ではないため、昭和53年に実施した第一回調査団の報告書等も参考にしていただき、研修員のニーズに合ったコースの改善が図られることを希望する次第である。

Ⅳ、公開セミナーの実施概要

本チームは、訪問国のネパール、マレーシア、フィリピンに於いて、公開セミナーを主催し、日本の観光についての情報を提供し（附属資料 6 参照）、また関係者と観光に関する意見交換を行った。以下に概要を述べる。

1. ネパール

1) 実施日：1987年 2月22日（日）

2) 場 所：シャングリラホテル Shangrila Hotel（カトマンズ市）

3) 参加者：Mr. Gopal Bahadur Subedi Ministry of Labour and Social Welfare (1974)
Mr. Din Kaji Shakya Ministry of Finance (1975)
Mr. Raj Bhai Sakya National Education Committee (1978)
Mr. Khagendra Prasad Parajuli MOF (1980)
Mr. Lok Nath Dhakal MOF (1981)
Mr. Hari Sharan Shrestha MOT (1982)
Mr. Umesh Kumar Singh MOT (1983)
Mr. Bishnu Hari Nepal MOT (1984)
Mr. Tulshi Kumar Karmacharya MOT (1985)
Mr. Shailendra Pradhanang Hotel Management & Tourism Training Centre
Mr. Gagendra Chettri Menuka Travel & Tours

(司 会)

Mr. Hideo Ono Director
JICA NEPAL OFFICE

(議 長)

Mr. B.R. Chalise Deputy Director General, Department of
Tourism, Ministry of Tourism

(ゲスト)

Mr. Janak Thapa Director General
Department of Tourism, Ministry of Tourism
Mr. Tadao Hashimoto Third Secretary, Embassy of Japan

(講 師)

Mr. Nakamura, Ministry of Transport, Japan
Mr. Akiyama, Japan National Tourist Organization
Mr. Ishizuka, JICA Head Quarters

(特別講師)

Mr. Miyahara, Hotel Himalaya, Kathmandu

4) 講義テーマ・内容

- ① 日本の観光情勢・統計
- ② インバウンド・ツーリズムのプロモーションの手法
- ③ 外客受入れのノウハウ
- ④ 日本人旅行者の動向
- ⑤ 観光開発と国際協力
- ⑥ ネパールの観光開発と外客受入れ
- ⑦ 日本の観光行政

5) 配布資料

- ① Tourism in Japan
- ② Japan as an Ideal Destination
- ③ Current Tourism Policy in Japan
- ④ Mission for Japanese Overseas Travel Promotion
- ⑤ The Advanced Tourism Information System

その他

6) 概 要

イ) ネパールは観光マーケットとしての日本を重視しており、

- ① 東京ーカトマンズ直行便乗り入れの問題
- ② 日本人をはじめとする外客受入れ体制の整備
に関心が集まった。

ロ) ネパールの観光開発について我が国の技術協力を強い希望があった。インドネシア、マレーシア及びタイに於ける観光開発調査協力の例を説明した。

ハ) 在ネパール在住20年余の宮原氏(ヒマラヤホテル経営)のネパール観光開発論にはとりわけ深い関心がもたれた。

2. マレーシア

1) 実施日: 1987年2月26日(水)

2) 場 所: ミンコートホテル Ming Court Hotel (クアラルンプール市)

3) 参加者: Mr. Zawawi Abd. Rahman

Assistant Director

Public Services Department (PSD)

Career & Training Division

Mr. Rothiah bte Omar

- do -

Mr. Ruslan bin Khatib	Deputy Director, National Productivity Centre (NPC) (1976)
Mr. Md. Jasni Abd. Aziz	Senior Training & Investigating Officer, Institute of Hotel & Tourism Management, NPC
Mr. Sharin Aminullah	TDC
Mr. Richard Robin Poi	TDC (1985)
Mr. Fatimah Normasila bth Musa	TDC (1986)
Mr. Rafiah bte Khalid	TDC
Mr. Noor Aine btn Ismail	TDC

(司 会)

Mr. Akiyama, Japan National Tourist Organization

(ゲスト)

Mr. Yasuhiro Oyamada Embassy of Japan

(講 師)

Mr. Nakamura, Ministry of Transport, Japan

Mr. Akiyama, Japan National Tourist Organization

Mr. Ishizuka, JICA Head Quarters

(オブザーバー)

Mr. Kenichi Imai JICA Malaysia Office

4) 講義テーマ・内容

- ① 日本の観光情勢・統計
- ② インバウンド・ツーリズムのプロモーションの手法
- ③ 外客受入れのノウハウ
- ④ 日本人旅行者の動向
- ⑤ 観光開発と国際協力
- ⑥ 日本の観光行政
- ⑦ マーケットとしての日本

5) 配布資料

- ① Tourism in Japan
- ② Japan as an Ideal Destination
- ③ Current Tourism Policy in Japan
- ④ Mission for Japanese Overseas Travel Promotion

⑤ The Advanced Tourism Information System

その他

6) 概 要

イ) マレーシアは、アセアン諸国を除いては日本が最大のマーケットであるにもかかわらず、他のアセアン諸国に較べ日本人旅行者の受入れが少ないこと。及びマレーシアの日本人旅行者誘致活動に関する意見交換を行った。

ロ) PRを含めたマーケティングの方法及びコンベンション誘致の手法について強い関心が示され、我が国の経験を紹介した、

ハ) ゲストの在マレーシア大使館小山田書記官より、JICAベースの観光開発調査の紹介があり、マレーシア側の、より積極的な協力が要望された。

ニ) マレーシア側からは、マルチスライドプレゼンテーションがあった。

3. フィリピン

1) 実施日：1987年3月4日(水)

2) 場 所：ペニンスラホテル Peninsula Hotel (マニラ市)

3) 参加者：Mr. Atty. Evelio R. Leonardia	Tourism Field Coordinator, Bacolod Field Office, DOT (1981)
Mr. Edwin G. Trompeta	Tourism Field Coordinator, Iloilo Field Office, DOT (1980)
Mr. Arcangel B. Vargas	Tourism Promotion Officer, Legaspi Field Office, DOT (1983)
Ms. Rosario dela Cruz-Afuang	DOT (1982)
Ms. Myriam P. Guillen	PTA (1977)
Ms. Stella Maria L. de Guia	DOT (1985)
Ms. Joan Gonzales	Staff Economist, NEDA
Ms. Gigi Liwanag	Tourism Field Coordinator, DOT
Mr. Reynaldo G. Alcid	AIT, UP (1979)
Ms. Miguela Maniago Mena	AIT, UP (1984)

(司 会)

Mr. Akiyama, Japan National Tourist Organization

(講 師)

Mr. Nakamura, Ministry of Transport, Japan

Mr. Akiyama, Japan National Tourist Organization

Mr. Ishizuka, JICA Head Quarters

4) 講義テーマ・内容

- ① 日本の観光情勢・統計
- ② インバウンド・ツーリズムのプロモーションの手法
- ③ 外客受入れのノウハウ
- ④ 日本人旅行者の動向
- ⑤ 観光開発と国際協力
- ⑥ 日本の観光行政
- ⑦ 外客誘致の要素

5) 配布資料

- ① Tourism in Japan
- ② Japan as an Ideal Destination
- ③ Current Tourism Policy in Japan
- ④ Mission for Japanese Overseas Travel Promotion
- ⑤ The Advanced Tourism Information System

その他

6) 概 要

イ) フィリピン政情不安にともなう日本人旅行者の減少に関する現状と問題点について、意見交換が行われた。特に、治安と観光誘致及び国内観光振興策についても強い関心をもたれた。

ロ) 上級コース設立の強い希望が出された。

V. おわりに

世界経済は緩やかな回復基調にあるといわれながら、依然として失業率は高く、特に先進国間では経済摩擦が激化している。また、石油価格と一次産品価格の低落により産油国及び一次産品への依存度の高い開発途上国の経済は大きな打撃を受けている。先進国の多くは観光産業が雇用の促進に非常に貢献していることの認識を改めて強くしており、サービス産業の中でも高い雇用力をもつ観光産業の発展を積極的に図っているところである。開発途上国においては、農業の多角化と工業化の推進が思うように進展しないため、積極的な観光政策を推進し、外客誘致を図ることにより国際収支の改善を図るとともに、雇用機会の増大と地域開発に有効である観光開発を積極的に行おうとしている。

今回訪問したネパール、マレーシア及びフィリピンの各国はいずれも観光を経済発展の原動力にしようと考えて観光振興政策を推進しているが、資金面、技術面における制約から思うように進展しない状況にある。この三か国は、とりわけアジアにおいて最大の観光市場である我が国に対する関心が強く、単に日本人旅行者の誘致といった観点からのみならず、我が国の観光振興方策や観光産業の成長した秘訣といった点に強い関心を示しており、この分野での我が国に対するノウハウ提供に対する要請が強い。特に観光が国の経済発展に重要な役割を果たしているネパール及びフィリピンでは日本人旅行者の増大を積極的に図りたいとしている。近年の社会不安等により訪問旅行者が減少しているフィリピンにおいては、日本人旅行者の減少がいきおいこの国の経済環境に影響を与えている。

このようななかで、我が国政府はこれまで、現在の開発途上国がそうであるように、観光収入第一主義の政策から国際理解の促進を重視した観光政策を推進しているところである。したがって、外客誘致政策の目標は、我が国と諸外国との間で生じている経済摩擦の原因の一つでもある対日理解の不足を解消するための我が国の歴史、文化、生活慣行といったものを理解してもらうことにその重点を移している。また、恒常的な我が国貿易収支の黒字を解消し、諸外国の経済発展にも寄与するとともに、国民の国際理解の促進に極めて有効であることから国民の海外旅行を積極的に推奨する政策を推し進めている。このような我が国の国際観光振興政策は諸外国から注目されており、今後のより積極的な展開が期待されているところである。

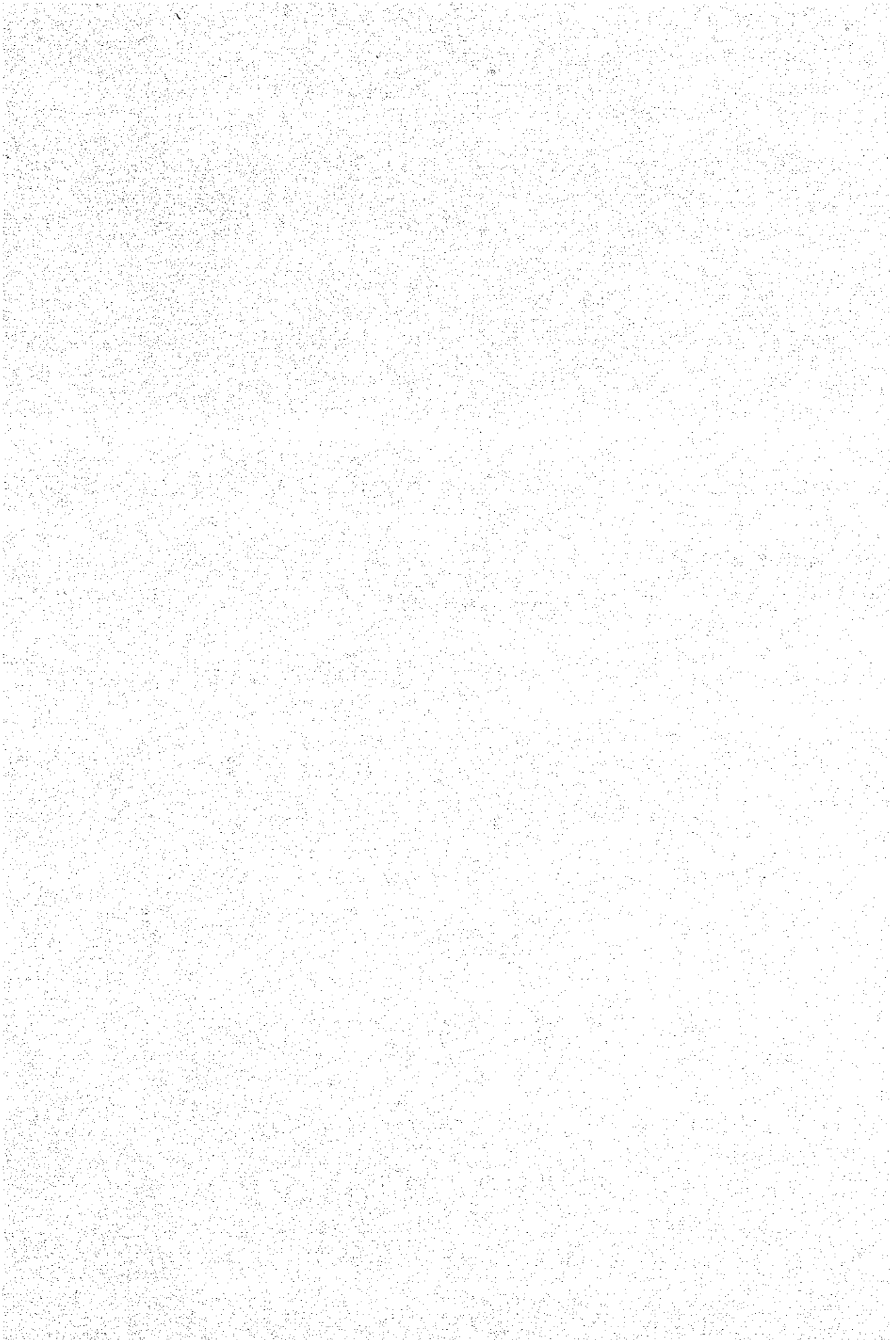
我が国の経済成長に伴ない、「物的交流」は活発になっているのに対して、相互理解と友好を深めるために最も効果的である「人的交流」は未だ低い水準にある。昭和60年の我が国の出入国者数は海外旅行者495万人、訪日旅行者233万人の計728万人であったが、これは同年の米、英、仏、西独の平均出入国者数の約21%に過ぎないというのが現状である。世界の平和と国際社会の安定を希求する我が国としては、国民相互の理解と友好を深めるための観光交流の促進に積極的寄与していく必要があり、その意味において、観光分野での国際協力、国際強調を積極的に推進していくことが重要である。観光はその国の政治、経済社会、文化、教育といったあらゆる分野に関連しており、この発展を図ることは一朝一夕にはできず、長い時間を要することは我が国の例からしても明らかである。従って、集団研修等の人造り協力に関しては息の長い協力が必要であり、本件「観光振興セミナー」は関係者の努力により更に充

実、発展させていくべきであると思われる。

“旅行を通して理解を深めることは世界平和へのパスポートである”といったキャッチ・フレーズが公的旅行機関国際同盟（世界観光機関の前身）から発せられたのは1967年（昭42）の国際観光年であり、これが現在においても世界の観光政策のシンボルとなっている。

附 属 資 料

1. 観光振興セミナーの概要	37
2. 観光振興セミナー研修員受入実績	45
3. 帰国研修員リスト	49
① ネパール	51
② マレーシア	53
③ フィリピン	56
4. 帰国研修員に対するアンケート調査票	59
5. 当該国訪問機関に提出した英文報告書	69
6. 公開セミナー資料	81



(附属資料 1)

観光振興セミナーの概要

観光振興セミナーの概要

1. セミナーの目的及び背景

(1) セミナーの目的

国際観光の振興が国際間の相互理解の増進のみならず、国際収支の改善、雇用機会の創出等、国民経済の発展と国民生活の安定向上に寄与するものであることから、恒常的に国際収支の赤字に悩む多くの開発途上国においては国際観光の振興策を積極的に推進している。

このため、本セミナーは、開発途上国政府の観光機関等において観光振興業務に従事する職員を対象に、わが国の観光振興政策に関する知識を紹介することにより、参加各国の観光行政の改善に資するとともに、参加各国とわが国との間の友好親善を図ることを目的とする。

(2) セミナーの背景

潜在的観光資源の豊かな開発途上国において国際観光の振興を図るためには宿泊施設の改善等の外国人旅行者の受入れ体制を整備することはもとより、観光資源の保護と有効活用及び観光産業の健全な発達が要請されているが、その後進性のため政府が主導的に政策を推進し、民間企業を誘導していかなければならず、各国ともわが国がこれまでに蓄積して来た観光振興に関する技術及び知識に関心を寄せている。

本セミナーはこうした各国のニーズに応えるものであり、昭和40年度に開設されて以来昨年度まで延べ60か国から330名の研修員を受入れている。

2. 到達目的

(1) セミナー全体の到達目的

- 1) わが国の観光振興策、観光産業及び国際観光振興のための活動の現状を理解せしめる。
- 2) 参加各国における観光振興政策等の現状とその問題点について意見交換を行う。

(2) 主要研修課題の到達目的

1) 観光振興政策

わが国の観光行政組織の概要、観光振興政策及びその法体系について理解せしめる。

2) 観光産業

わが国の旅行業、宿泊業、レストラン業、通訳案内業、交通業及び伝統工芸産業の現状と問題を理解せしめる。

3) 国際観光振興のための諸活動

国際観光振興会の活動を中心にわが国の外客誘致に関する技術と知識を理解せしめる。

3. 研修項目、研修方法

(1) 研修項目

1) 観光振興政策

観光行政，観光政策，観光法規，観光資源の保護，観光の経済的効果，国内観光の振興，観光分野での国際協力等

2) 観光産業の現状

旅行業，宿泊業，レストラン業，通訳案内業，交通業，伝統工芸産業等

3) プレゼンテーション

参加各国の国際観光振興に関する現状と問題点

4) 国際観光振興のための諸活動

観光マーケティング，観光統計，観光市場調査，海外広報，海外宣伝，地域間協力，外客受入れ体制の改善，観光案内所の運営，国際会議誘致活動等

(2) 研修方法

1) 講義

本セミナーの講義は，2時間を1単位として実施し，大半の講義は1～2単位の範囲内で行う，講師は，所定のテキスト，レジュメあるいはVTR・スライド等の視聴覚機材を利用して講義を行う。

2) 使用言語

本セミナーは，英語で行う。ただし必要のつど，国際協力事業団の研修監理員の通訳を介して行う。

3) 参加各国の観光振興に関するプレゼンテーション

研修員が，自国の観光振興策と観光事情の紹介を行うことにより，その現状と問題点について比較検討を行う。

4) 見学

研修員の理解をより深めるために講義課目と併行して，各地の観光関連施設を見学する。

4. 研修員参加資格

(1) General Information (G.I.) で示した研修員の資格要件は，下記の通りである。

1) 要請国政府によって推薦された者

2) 大学卒業又はそれと同等の学力を有し，かつ3年以上の実務経験を有する者

3) 現に，公的機関において観光振興教務に従事している者

4) 原則として，年齢25才以上35才以下の者

5) 十分な英語の会話力，読解力を有する者

6) 精神的，身体的な研修に耐え得る健康な者。女性については，妊娠していない者。

(2) 入選方法及び選考基準

参加割当国に対して日本大使館等を通じ配布される本セミナーのG. I. に基づいて相手国政府

から提出される要請書（A3フォーム）により、主にG. I. 記載の資格要件を選考基準として、国際協力事業団、運輸省及び国際観光振興会が協議し研修員の人選を行う。

5. 研修実施体制

本セミナーは、運輸省、国際協力事業団、及び国際観光振興会の3者の協力により実施運営するものである。なお、国際協力事業団は、研修業務の実施を国際観光振興会に委託する。

6. 研修教材

(1) 使用テキスト

Tourism in Japan

Tourism Laws and Regulations in Japan

The Japanese Linking for Circles

その他各講義ごとの講義概要及び講義資料

(2) 資機材

VTR, OHP, スライド, 16mm, 8mm

なお、60年度の研修日程は次のとおり。

月	日	曜	研 修 内 容	担 当 機 関	場 所
10.	3	木	研修員来日	JICA	JICA
	4	金	国際協力事業団（JICA）プリーフィング		
	5	土			
	6	日			
	7	月	JICAオリエンテーション		
	8	火			
	9	水		JICA	JICA
	10	木	(体育の日)		
	11	金			
	12	土			
	13	日			

14	月	AM	プログラムオリエンテーション	運輸省(MOT)	MOT
		PM	国際運輸・観光局 観光部長表敬 国際観光振興会(JNTO)会長表敬 歓迎会	MOT JNTO	MOT JNTO
15	火	AM	講義「観光行政」	MOT	DIA
		PM	講義「観光行政」	MOT	DIA
16	水	AM	講義「旅行者保護と旅行業法」	MOT	DIA
		PM	講義「観光レク施設の整備」	MOT	DIA
17	木	AM	講義「自然観光資源の保護」	環境庁	DIA
		PM	講義「人文観光資源の保護」	観光資源 保護財団	DIA
18	金	AM	講義「宿泊施設の整備」	MOT	DIA
		PM	講義「旅行業の現状」	日本旅行業協会 (JATA)	DIA
19	土				
20	日				
21	月	AM	講義「ホテル業の現状」	日本ホテル協会	DIA
		PM	視察登録ホテル	日本ホテル協会	
22	火	AM	講義「通訳案内業の現状」	ガイド協会	DIA
		PM	講義「ホテル従業員の教育」	ホテ教センター	DIA
23	水	AM	視察登録旅館(福田屋)	国観連	
		PM	視察国際観光レストラン(椿山荘)	レス協	
24	木	AM	講義「観光プロジェクトの形成と評価」	IDC	DIA
		PM	講義「日本人とその旅行」	立教大学	DIA
25	金	AM	講義「観光動機とマーケティング」	立教大学	DIA
		PM	講義「観光の経済的影響評価」	JNTO	JNTO
26	土				
27	日				
28	月	AM	講義「海外観光宣伝活動」	JNTO	JNTO
		PM	講義「観光宣伝資料の作成」	JNTO	JNTO

29	火	AM 講義「外客受入体制の整備」	JNTO	JNTO
		PM 講義「総合観光案内所の運営」	JNTO	JNTO
30	水	AM 講義「観光宣伝の地域協力」	JNTO	JNTO
		PM 講義「国際会議の誘致活動」	JNTO	JNTO
31	木	AM 講義「観光市場調査」	JNTO	JNTO
		PM 講義「日本人海外旅行市場」	JNTO	JNTO
11. 1	金	AM 講義「在日外国政府観光局」	インドネシア	JNTO
		PM 講義「在日外国政府観光局」	イギリス	JNTO
2	土			
3	日	(文化の日)		
4	月	(振替休日)		
5	火			
6	水	AM/PM 参加国研修員のプレゼンテーション	MOT, JNTO, JATA	D I A
7	木	"	"	"
8	金	"	"	"
9	土			
10	日			
11	月	AM/PM 参加国研修員のプレゼンテーション	MOT, JNTO, JATA	D I A
12	火	"	"	"
13	水	AM 地方視察ブリーフィング		
14	木	[地方視察旅行]		
		AM 東京 → 京都		
		PM 講義「京都の観光振興」	JNTO	京都泊
15	金	AM/PM 京都市内観光施設視察		京都泊
16	土	AM 京都 → 広島		
		PM 広島市内観光施設視察		広島泊

17	日	広島 → 熊本		熊本泊
18	月	AM 熊本県知事表敬訪問 PM 熊本県内観光施設視察	熊本県 熊本県	天草泊
19	火	AM 熊本県内観光施設視察 PM 熊本 → 鹿児島	熊本県	鹿児島泊
20	水	AM 鹿児島県知事表敬訪問 講義「鹿児島県の観光行政」 PM 鹿児島市内観光施設視察	鹿児島県 鹿児島県 鹿児島県	指宿泊
21	木	AM/PM 鹿児島県内観光施設視察	鹿児島県	鹿児島泊
22	金	AM 鹿児島 → 東京		
23	土	(勤労感謝の日)		
24	日			
25	月			
26	火	第5回日本国際観光会議 (高輪プリンスホテル)	JATA	
27	水	"	"	"
28	木	"	"	"
29	金	AM/PM ファイナルレポート作成		
30	土			
12. 1	日			
2	月	AM 反省会 PM 閉講式	JICA, MOT, JNTO JICA, MOT, JNTO	JICA JICA
3	火	AM/PM 帰国準備		
4	水	離日		

観光振興セミナー研修員受入実績

観光振興セミナー研修員受入実績

国 別	1965 ～ 1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	合計
アジア・太平洋	93	13	10	13	9	7	9	10	9	4	177
1. ブータン	4	1	0	1	0	0	1	0	0	0	7
2. ビルマ	5	0	0	1	0	0	1	1	0	0	8
3. 台湾	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
4. 韓国	7	1	1	1	0	0	0	0	0	1	11
5. インド	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	5
6. モルディヴ	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
7. インドネシア	10	1	1	1	2	1	1	1	1	0	19
8. クメール	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
9. ラオス	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
10. マレーシア	6	1	0	1	1	1	1	1	1	1	14
11. ネパール	5	1	1	1	1	1	1	1	1	0	13
12. パキスタン	6	1	0	2	0	0	0	0	0	0	9
13. フィリピン	9	1	2	1	1	1	1	1	1	0	18
14. スリランカ	6	1	1	2	0	0	1	1	1	0	13
15. タイ	10	1	1	1	2	1	1	1	1	1	20
16. バングラデシュ	6	1	2	1	1	1	0	0	0	0	12
17. バア・ニューギニア	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3
18. トンガ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
19. ヴェトナム	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
20. 西サモア	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
21. フィジー	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
22. 中国	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
中近東・アフリカ	39	6	6	5	6	6	4	5	4	3	84
23. アフガニスタン	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
24. イラン	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
25. イラク	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
26. レバノン	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
27. シリア	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
28. トルコ	6	0	0	1	1	1	0	0	0	1	10

29. エジプト	3	1	2	1	0	1	1	1	1	0	11
30. リベリア	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
31. 象牙海岸	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
32. シエラレオーネ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
33. モーリタニア	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
34. ナイジェリア	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
35. モロッコ	2	0	0	0	1	1	1	0	0	1	6
36. スーダン	7	1	1	1	0	0	0	0	0	0	10
37. ケニア	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5
38. タンザニア	3	1	1	1	1	0	0	1	1	0	9
39. セイシエル	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
40. チュニジア	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
41. ザンビア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
42. カメルーン	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
43. ガボン	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
中 南 米	35	5	7	6	4	5	7	5	2	3	79
44. ヴェネズエラ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
45. パラグアイ	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
46. アルゼンチン	5	1	1	1	0	1	0	0	0	0	9
47. ポリビア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
48. ブラジル	5	1	1	1	2	0	0	0	1	0	11
49. チリ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
50. ドミニカ	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	6
51. エクアドル	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
52. ジャマイカ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
53. コスタリカ	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3
54. パナマ	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	4
55. メキシコ	1	2	2	2	1	1	1	1	0	0	11
56. コロンビア	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
57. ペルー	6	1	1	1	1	1	1	1	1	0	14
58. ウルグアイ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
59. キューバ	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
60. グレナダ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
61. セントルシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合 計	167	24	23	24	19	18	20	20	15	10	340

帰国研修員リスト

- ① ネパール
- ② マレーシア
- ③ フィリピン

LIST OF EX-PARTICIPANTS OF THE GROUP TRAINING COURSE IN
"THE SEMINAR ON TOURISM PROMOTION" (NEPEL)

No.	氏名 (Name)	現職 (Post)	所属先住所 (Official Address)	研修参加年度 (Year of Participation)	研修参加時の所属先
1	Mr. Gopal Bahadur Subedi	Deputy Director, Department of Labour, Ministry of Labour and Social Welfare	Ramshahpath, Kathmandu	1974	Section Officer, Dept. of Tourism, Ministry of Industry & Commerce
2	Mr. Din-Kaji Shakya	Section Officer, Tax Department, Ministry of Finance	Lazimpat, Kathmandu	1975	Officer, Department of Tourism
3	Mr. Haridev Nepal	Department of Tourism Section Officer (Chief)	Ramshahpath, Kathmandu	1976	Department of Tourism Section Officer (Chief)
4	Ms. Prabha Pradhan	不明		1977	Ministry of Industry and Commerce HN Minister for Tourism Industry
5	Mr. Raj Bhai Sakya	Under Secretary, National Education Committee	Keshar Mahal, Kathmandu	1978	HMG. of Nepal Dept. of Tourism Section-Officer
6	Mr. Rabindra Nath Adhikary	Ministry of Tourism		1979	Ministry of Tourism
7	Mr. Khagendra Prasad Parajuli	Section Officer, Foreign Aid Coordination Div., Ministry of Finance	Bag Durbar, Kathmandu	1980	Ministry of Tourism, Planning Div. Section Officer

No.	氏名 (Name)	現職 (Post)	所属先住所 (Official Address)	研修参加年度 (Year of Participation)	研修参加時の所属先
8	Mr. Lok Nath Dhakal	Tax Officer, Ministry of Finance.	Babar Mahal, Kathmandu	1981	Ministry of Tourism, Planning Div. Section Officer
9	Mr. Hari Shran Shrestha	Ministry of Tourism, Planning and Promotion Div., Section Officer	Tripureswar, Kathmandu	1982	Ministry of Tourism, Planning and Promotion Div., Section Officer
10	Mr. Umesh Kumar Singh	Dept. of Tourism, Ministry of Tourism, Administration Section Officer	Ministry of Tourism, Tripureswar, Kathmandu	1983	Ministry of Tourism, Administration Section Officer
11	Mr. Bishnu Hari Nepal	Dept. of Tourism, Ministry of Tourism, Int'l Publicity and Promotion Section Officer	Tripure Work & Kathmandu	1984	Dept. of Tourism, Ministry of Tourism, Int'l Publicity and Promotion Section Officer
12	Mr. Tulshi Kumar Karmacharya	Ministry of Tourism, Govn'tal Administration Section Officer	Tripureswar, Kathmandu	1985	Ministry of Tourism, Govn'tal Administration Section Officer

LIST OF EX-PARTICIPANTS OF THE GROUP TRAINING COURSE IN
"THE SEMINAR ON TOURISM PROMOTION" (MALAYSIA)

No	氏名 (Name)	現職 (Post)	所属先住所 (Official Address)	研修参加年度 (Year of Participation)	研修参加時の所属先
1	Mr. Che Wan Bin Haji Suak	不明		1965	Tourist Officer (Development & Liaison)
2	Mr. Abdul Rahman Bin Ali	不明		1972	Asst. State Secretary of Negeri Sembilan. Secretary to Menteri Besar of Negeri Sembilan
3	Ms. Mastura Baiduri Badrillah	Lecturer of "English" Univ. of Technology	27 Jalan Raja Uda, Kuala Lumpur	1975	Asst. Director Marketing Div. Tourist Development Corporation
4	Mr. Ruslan Bin Khatib	National Productivity Centre, Deputy Director	P.O. Box 64, Jalan Sultan, 46904 Petaling Jaya	1976	National Productivity Centre Assistant Director
5	Ms. Siew Lean Poon	Tourist Development Corporation, International Relations and Convention, Director	24th Floor, Menara Dato Onn, Jalan Tunlsmail, 50710 Kuala Lumpur P.O. Box 10328	1976	Tourist Development Corporation Assistant Director
6	Mr. Syed Abdul Rashid B. Syed Ahmad	General Manager, Trading Tender Travel and Tour, KOBENA (Private Company)	273, Jalan Tunruzak, 501400, Kuala Lumpur	1977	Tourist Development Corporation Research & Training Director
7	Mr. Wan Mahmud Bin Wan Hrahin	自營	P.O. Box 328 Kuala Lumpur	1978	Tourist Development Corporation Asst. Director, Development & PR

No.	氏名 (Name)	現職 (Post)	所属先住所 (Official Address)	研修参加年度 (Year of Participation)	研修参加時の所属先
8	Mr. MHD. Rais MHD. Saman	Tourist Development Corporation, Development and Project Management Division, Senior Tourist Officer	P.O. Box 10328, Kuala Lumpur	1980	Tourist Development Corporation Enforcement & Facilitation Senior Tourist Officer
9	Mr. Zainal Abidin Bin Baba	Executive Assistant Manager, Kelab Raintree Kuala Lumpur (Private Club)	Lot 1002 Jalan Wickham, off Jalan Ampang Hilir, 55000 Kuala Lumpur	1981	Tourist Development Corporation Enforcement & Facilitation Senior Tourist Officer
10	Mr. MHD. Hazizi Bin Othman	Bank Officer, Kwong Yik Bank	Jalan Bandar, Kuala Lumpur	1982	Tourist Development Corporation Enforcement & Facilitation Tourist Officer
11	Mr. Azizan Bin Nordin	Tourist Development Corporation, Enforcement & Facilitation Div. Senior Tourist Officer, Central Region	25th Floor, Menara Dato' onn, Putra World Trade Centre, Jalan Tun Ismail, 50480 Kuala Lumpur	1983	Tourist Development Corporation Enforcement & Facilitation Div. Tourist Officer
12	M. Zailin Alwee	Tourist Development Corporation Development & Project Management Tourist Officer	P.O. Box 10328, Kuala Lumpur	1984	Tourist Development Corporation Development & Project Management Tourist Officer

No	氏名 (Name)	現職 (Post)	所属先住所 (Official Address)	研修参加年度 (Year of Participation)	研修参加時の所属先
13	Mr. Richard Robin Poi	Tourist Development Corporation, Marketing Division, Marketing Officer	P.O. Box 10328, 25P., Menara Dato' Onn Pusat, Perdagangan, Dunia Putra	1985	Tourist Development Corporation Research & Training Tourist Officer
14	Ms. Fatimah Normasi-la BT Musa	Tourist Development Corporation Int'l Relations & Convention Tourist Officer	P.O. Box 10328, 50710 Kuala Lumpur	1986	Tourist Development Corporation Int'l Relations & Convention Tourist Officer

LIST OF EX-PARTICIPANTS OF THE GROUP TRAINING COURSE IN
"THE SEMINAR ON TOURISM PROMOTION" (PHILIPPINES)

No	氏名 (Name)	現職 (Post)	所属先住所 (Official Address)	研修参加年度 (Year of Participation)	研修参加時の所属先
1	Mr. Teodoro N. Balagtas	不明		1967	Chief of Board of Travel & Tourist Industry
2	Ms. Caridad D. Diaz	不明		1967	Administrative Officer of Philippines Tourist & Travel
3	Ms. Susan O. Castrence	Press Secretary & Consul General, Dept. of Foreign Affairs	Philippine Embassy, Washington, D.C., U.S.A.	1972	Foreign Service Staff. Officer Dept. of Foreign Affairs
4	Mr. Godfrey Bunanig Lumavig	不明	New York, U.S.A.	1974	Tourism Coordinator, Dept. of Tourism
5	Ms. Maria Zeneida Naidi Cabanatuan	Housewife	21 Consul St., Fairview Park, Quezon City	1975	Chief, Special Programs, Philippines Tourism Authority
6	Ms. Lolita A. Gana	不明	Maguiling, Piat, Cagayan	1976	Department of Tourism Training Officer
7	Ms. Teresa F. Bernabe Parajuli	University of the Philipp- ines, College of Business Administration, Professor (Associate)	U.P. Dilliman, Quezon City	1976	University of the Philippines College of Business Administration Professor (Associate)

No	氏名 (Name)	現職 (Post)	所属先住所 (Official Address)	研修参加年度 (Year of Participation)	研修参加時の所属先
8	Ms. Myriam P. Guillen	Assistant Manager, Subsidiary Operations Department, Philippine Tourism Authority	Tourism Bldg., Agrifina Circle, Rizal Park, Metro Manila	1977	Philippine Tourism Authority Section Officer, Special Program Office, P.T.A. Coordinator, Subsidiary Entities
9	Ms. Nilda Almonte	不明	U.S.A	1977	Asian Institute of Tourism, University of the Philippines Academic, Research & Publications Faculty, Acting Secretary
10	Mr. Btenvenido Andaya	不明	Camp 7, Amparo Heights, Baguio City	1978	Dept. of Tourism Tourism Field Coordinator
11	Mr. Reynaldo C. Alcida	Asian Institute of Tourism Div. of Tourism Ext. Service. U.P. Training Assistant	Don Mariano Marcos Ave. Diliman, Quezon City	1979	Asian Institute of Tourism Div. of Tourism Ext. Service. U.P. Training Assistant
12	Mr. Ansel M. Dacuycu	不明	New York, U.S.A	1979	Ministry of Tourism, Press and Publications Feature Writer
13	Mr. Edwin G. Trompeta	Department of Tourism, Tourism Field Coordinator, Iloilo Field Office	General Luna St., Iloilo City	1980	Ministry of Tourism, Tourism Field Coordinator

No.	氏名 (Name)	現職 (Post)	所属先住所 (Official Address)	研修参加年度 (Year of Participation)	研修参加時の所属先
14	Mr. Evelio R. Leonardia	Department of Tourism, Bacolod Field Office Tourism Coordinator	San Juan, St. Bacolod City 6001	1981	Ministry of Tourism, Bacolod Office Tourism Coordinator
15	Ms. Rosario de La Cruz-Afuang	Department of Tourism, Tourism Field Coordinator for Europe Field Offices	Agrifina Circle, Rizal Park, Manila	1982	Ministry of Tourism, Field Office Tourism Field Coordinator
16	Mr. Arcangel B. Vargas	Department of Tourism, Legazpi Field Office, Tourism Promotion Officer	Penaranda Park, Albay District, Legazpi City	1983	Ministry of Tourism, Ieazpi Field Office, Tourism Promotion Officer
17	Ms. Miguela Mantago Mena	U.P. -Asian Institute of Tourism, Div. of Tourism Research & Publication, Research Assistant	Don Mariano Marcos Ave., Diliman, Quezon City	1984	U.P. -Asian Institute of Tourism Div. of Tourism Research & Publication, Research Assistant
18	Ms. Stella Maria L. de Guia	Department of Tourism, Baguio Field Office, Tourism Field Coordinator	Gov. Pack Road, Baguio City	1985	Ministry of Tourism, Baguio Field Office, Tourism Field Coordinator

帰国研修員に対するアンケート調査票

QUESTIONNAIRE

To Ex-participants of the Training Course in "The Seminar on Tourism Promotion."

Please reply the following questions.

I. General Questions

1. Name (Please underline your surname)

2. Date of birth

3. Home address

4. Year of participation: 19

5. Occupation

a) Your present position and official address

b) The organizational chart of your present office and indicate your section or position in the attached paper (Annex 1).

c) Please describe your duties in the present service briefly

II. Educational Data:

6. Education/Training (degree and non-degree) before attending training at JICA

Name education/training institution	Location of institution	Years from - to	Certificate/Diploma/Degree obtained - and - Major discipline

7. Education/Training (degree or non-degree) after attending training at JICA

Name education/training institution	Location of institution	Years from - to	Certificate/Diploma/Degree obtained - and - Major discipline

III. Evaluation of the JICA training program

8. What was/were your initial expectation(s) of the JICA training?

9. To what extent did the training program correspond to your initial expectation(s)?

- Completely
- Highly
- Somewhat
- Hardly
- Not at all

Please explain your answer briefly:

10. To what extent can you apply the knowledge/skills, etc. acquired during the training to your present job?

- All
- Most
- Some
- A little
- None

Please explain your answer briefly:

11. Please indicate if personal improvement has occurred in your job or work since you attended the training at JICA.

- No improvements
- Yes, there is/are improvement(s)

If yes, please check where applicable:

- work conditions
- in obtaining another (better) job
- responsibility
- contents of work
- prospects for the future
- professional recognition
- salary-wise
- international contacts

Please explain your answer(s) briefly:

12. To what extent did the training you attended contribute to the improvement(s) mentioned in the previous question?

- a lot
- somewhat
- not at all

Please explain your answer briefly:

13. Which part of your training of JICA do you think proved to be the most useful to you in relation to your subsequent positions and responsibilities?

14. What do you consider are obvious obstacles in the performance of your present job?

Check no more than 4 boxes in each items A and B.

A. Lack of:

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> trained personnel | <input type="checkbox"/> support of supervisor |
| <input type="checkbox"/> equipment | <input type="checkbox"/> technical literature |
| <input type="checkbox"/> funds | <input type="checkbox"/> markets |
| <input type="checkbox"/> foreign experts | <input type="checkbox"/> national training institutes |
| <input type="checkbox"/> research facilities | <input type="checkbox"/> transport facilities |
| <input type="checkbox"/> career perspective | <input type="checkbox"/> foreign currency |

If there are some more obstacles than those described above, please write them:

B. Various constraints:

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> economic situation | <input type="checkbox"/> brain drain |
| <input type="checkbox"/> poor management | <input type="checkbox"/> promotion structure |
| <input type="checkbox"/> too much foreign influence | <input type="checkbox"/> no in-service training |
| <input type="checkbox"/> political situation | <input type="checkbox"/> poor maintenance of equipment |

If there are some more obstacles than those described above, please write them:

15. If you have any proposals regarding the items mentioned below for the improvement of the seminar, please write them.

a) Season and duration of the seminar:

b) Curriculum and contents:

c) Observation Tour:

d) Discussion:

e) Country report:

f) Other comments:

IV. Information and retraining for ex-participants

16. Do you have any request for sending technical information?

17. Do you have any proposals for a new seminar to be established?

Thank you very much for your cooperation.

The Technical Follow-up Team
for Ex-participants of the Course in
"The Seminar on Tourism Promotion"

ANNEX 1

Chart of the organization

当該国訪問機関に提出した英文報告書

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO
160 JAPAN

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR
EX-PARTICIPANTS IN THE COURSE OF "THE SEMINAR ON TOURISM PROMOTION"

1. INTRODUCTION

It is our greatest pleasure to have the opportunity to visit Nepal as the Follow-up Team for ex-participants of the Group Training Course in "The Seminar on Tourism Promotion".

As it is well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has conducted a number of training programs in various fields, and JICA has been sending a Follow-up Team to the participating countries in order to improve these programs.

In the course of "The Seminar on Tourism Promotion", JICA accepted 330 participants from 61 countries including 12 participants from Nepal during 1965 to 1986.

Before leaving this country, we submit a brief report based on our activities for 4 days.

2. OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP TEAM

The Follow-up Team visits ex-participants' organizations and related organs for the purpose of exchanging opinions and offering latest information in the field of tourism promotion as well as improving this training program.

3. TEAM MEMBER

- a. Mr. Yoshimune Nakamura
Chief, International Affairs Section, Policy Division,
International Transport and Tourism Bureau, Ministry of
Transport
- b. Mr. Osamu Akiyama
Manager, International Cooperation Department,
Japan National Tourist Organization
- c. Mr. Yukihiisa Ishizuka
Training Officer, First Training Division,
Training Affairs Department,
Japan International Cooperation Agency

4. TEAM'S ACTIVITIES

During our stay, we were able to see many ex-participants and number of people involved. (as for the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report)

5. FINDINGS AND OPINIONS FROM EX-PARTICIPANTS AND PEOPLE CONCERNED

As a result of the questionnaires and interviews with the ex-participants and authorities concerned, our team wishes to give the following impressions:

- 1) The tourism plays an important role to contribute to the economic development.
- 2) The Group Training Course in "The Seminar on Tourism Promotion" is highly appreciated by the people concerned.
- 3) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties through their experience and knowledge which they have learned in the seminar on tourism promotion in Japan.
- 4) Some of ex-participants play an important role in the field of tourism promotion and administration.

Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments and suggestions.

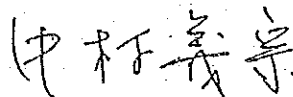
We are very happy that we could give this course and be appraised by the people in this country.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation to us during the period of our stay in.

Lastly, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Ministry of Tourism, Ministry of Industry & commerce, The Embassy of Japan and JICA Nepal Office.

Nepal

February 23, 1987



Yoshimune Nakamura
Team Leader
Follow-up Team Ex-participants
in "The Seminar on Tourism
Promotion"

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO
160 JAPAN

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS
IN THE COURSE OF "THE SEMINAR ON TOURISM PROMOTION"

1. INTRODUCTION

It is our greatest pleasure to have the opportunity to visit Malaysia as the Follow-up Team for ex-participants of the Group Training Course in "The Seminar on Tourism Promotion".

As it is well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has conducted a number of training programs in various fields, and JICA has been sending a follow-up Team to the participating countries in order to improve these programs.

In the course of "The Seminar on Tourism Promotion", JICA accepted 330 participants from 61 countries including 14 participants from Malaysia during 1965 to 1986.

Before leaving this countries, we submit a brief report based on our activities for 5 days.

2. OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP TEAM

The follow-up Team visits ex-participants' organizations and related organs for the purpose of exchanging opinions and offering latest information in the field of tourism promotion as well as improving this training program.

..2/.

3. TEAM MEMBER

- a. Mr. Yoshimune Nakamura
Chief, International Affairs Section, Policy Division,
International Transport and Tourism Bureau, Ministry of Transport
- b. Mr. Osamu Akiyama
Manager, International Cooperation Department,
Japan National Tourist Organization
- c. Mr. Yukihiisa Ishizuka
Training Officer, First Training Division,
Training Affairs Department,
Japan International Cooperation Agency

4. TEAM'S ACTIVITIES

During our stay, we were able to see many ex-participants and a number of people involved. (As for the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report.)

5. FINDINGS AND OPINIONS FROM EX-PARTICIPANTS AND PEOPLE CONCERNED

As a result of the questionnaires and interviews with the ex-participants and authorities concerned, our team wishes to give the following impressions:

- 1) It is regarded that Japan is the leading medium haul market, however, the number of Japanese arrivals is still small.
- 2) The Group Training Course in "The Seminar on Tourism Promotion" is highly appreciated by the people concerned.
- 3) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties through their experience and knowledge which they have learned in the seminar on tourism promotion in Japan.

..3/.

4) Most of ex-participants play an important role in the field of tourism promotion and administration.

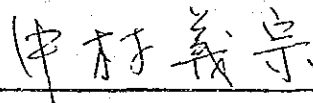
Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments and suggestions.

We are very happy that we could have the seminar in Malaysia and it was appraised by the attendants.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation to us during the period of our stay in Malaysia.

Finally, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Tourist Development Corporation, The Embassy of Japan and JICA Malaysia Office.

MALAYSIA
FEBRUARY 28, 1987



YOSHIMUNE NAKAMURA
TEAM LEADER

Follow-up Team for Ex-participants
in "The Seminar on Tourism Promotion"

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO
160 JAPAN

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS
IN THE COURSE OF "THE SEMINAR ON TOURISM PROMOTION"

1. INTRODUCTION

It is our greatest pleasure to have the opportunity to visit Philippines as the Follow-up Team for ex-participants of the Group Training Course in "The Seminar on Tourism Promotion".

As it is well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has conducted a number of training programs in various fields, and JICA has been sending a Follow-up Team to the participating countries in order to improve these programs.

In the course of "The Seminar on Tourism Promotion", JICA accepted 330 participants from 61 countries including 18 participants from Philippines during 1965 to 1986.

Before leaving this country, we submit a brief report based on our activities for 5 days.

2. OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP TEAM

The Follow-up Team visits ex-participants' organizations and related organs for the purpose of exchanging opinions and offering latest information in the field of tourism promotion as well as improving this training program.

3. TEAM MEMBER

- a. Mr. Yoshimune Nakamura
Chief, International Affairs Section, Policy Division,
International Transport and Tourism Bureau, Ministry of Transport
- b. Mr. Osamu Akiyama
Manager, International Cooperation Department,
Japan National Tourist Organization
- c. Mr. Yukihiisa Ishizuka
Training Officer, First Training Division,
Training Affairs Department,
Japan International Cooperation Agency

4. TEAM'S ACTIVITIES

During our stay, we were able to see many ex-participants and number of people involved. (As for the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report.)

5. FINDINGS AND OPINIONS FROM EX-PARTICIPANTS AND PEOPLE CONCERNED

As a result of the questionnaires and interviews with the ex-participants and authorities concerned, our team wishes to give the following impressions:

- 1) The number of Japanese tourist arrivals to the Philippines decreased these years due to the unstable social conditions, however, it still took the second place next to the U.S.A. last year.
- 2) The Group Training Course in "The Seminar on Tourism Promotion" is highly appreciated by the people concerned.
- 3) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties through their experience and knowledge which they have learned in the seminar on tourism promotion in Japan.

- 4) Most of ex-participants play an important role in the field of tourism promotion and administration.

Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments and suggestions.

We are very happy that we could have the seminar in this country and it was appraised by the attendants.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation to us during the period of our stay in.

Lastly, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Department of Tourism, University of the Philippines, The Embassy of Japan and JICA Philippines Office.

Manila
March 6, 1987

中村義宗

Yoshimune Nakamura

Team Leader

Follow-up Team for Ex-participants
in "The Seminar on Tourism Promotion"

